

2018. 10

vol. 113

改訂版 vol. 43

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南 5 丁目 14 番 12 号

岐阜県シンクタンク庁舎 4 階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367

内美代子さんが、話して下さったことで合点がいました。「昔は女性だから、若いからと、実力や努力相応の待遇はなかなか望めなくて女性や青年の委員会が作られて啓蒙に取り組んでいたけど、今はそれが変わってきつつある。」もうお会いすることは叶わず悲しいですが、思い出すと今でも声が聞こえてきそうです。

さて、今回副委員長の役をいただくことになりました。入会してから 10 年、岐阜近辺の方にひたすらお世話になり続けたご恩返しがやっとできるかと嬉しく、同時に心もとなく、せめてご迷惑をおかけしないよう務めてまいりたいと思います。

女性委員の皆様、これからもよろしくお願いいたします。



はじめに

女性委員会設立30周年に思うこと

副委員長 伊藤 麻子

私が建築士会に入会したのは女性委員会設立 20 周年の頃でしたので、あれから 10 年が経ってしまったのですね。

女性委員会に初めて参加させて頂いた時は岐阜シティタワー43でした。美味しい昼食をいただきながらの研修とおしゃべりで「楽しい!」という印象しかありません。主に一人で仕事をしている悩みや不安が沢山あり、そんな事を話せる仲間がいることはとても心強く感じ、これは今でも変わっていません。

こんなに楽しいのなら飛騨でもやりたいと、知っている女性建築士たちに声をかけたらみんな快諾してくださり、飛騨支部の女性委員会もできました。今では市のイベント出展やランチ会議（ここでもおしゃべり）が恒例となっています。支部の中では私たちが一番活躍しているのですよ! 高速道路ができたとはいえ飛騨はやはり遠く、なかなか岐阜方面には出かけられないので、皆さんと一緒する機会が少ないことが残念ではあります。

所属する以前は、女性委員会の存在を疑問に感じていました。女性が少ない中で女だけで集まって何をするの・・・? と。でもこのことは大先輩の河



今回の記事

◇ はじめに

◇ 今回の記事

◇ 今後の予定・お知らせ

◇ 建築士会 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会 平成30年度 前期定例富山会議
日 時: 平成30年6月23日(土)

◇ 建築士の日フェスティバル
日 時: 平成30年7月28日(土)

◇ 平成30年度 第28回全国女性建築士協議会(高知)
日 時: 平成30年7月28日(土)~29日(日)

◇ 大野町「北岡田家」見学会
日 時: 平成30年9月25日(火)

◇ 新入会員紹介

◇ 編集後記





今後の予定・お知らせ

◆ 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会

平成30年度後期定例 亀山大会

日程：平成31年2月23日(土)
～24日(日)

◆ 気楽にらくだ会

日程：平成31年3月2日(土)



建築士会東海北陸ブ ック会 女性建築士協議会 平成30年度前期定例富山会議

日 時：平成30年6月23日(土)
会 場：ボルファートとやま 9F 称名の間
(住 所：富山市奥田新町8-1
電話：076-431-1113)
参加者：3名



(↑会場にて)

【プログラム】

11:30～12:30	事前に昼食予約
12:30～13:00	受付
13:00～15:30	会議
15:30～16:30	見学会

東海北陸ブロック会前期定例

富山会議の報告

報告者：長瀬八州余

桂川さんのご主人さんの運転で富山まで行きます。富山市内に入ると、立山連峰にはまだ雪が残っていました。

JR 富山駅の前にある、「さかな屋撰鮮」で昼食をいただき、会場の『ボルファート富山』へ向かいます。

会場にて、伊藤さんと合流して岐阜県は3名の参加です。

会議は例年通りの議事進行でしたが、タイムスケジュールがちゃんとしてあり、時間になるとベルが鳴り、時間通りに会議は終わりました。

今回から連合会引き継ぎの関係で、旧相談役と新相談役の2名が出席という予定でしたが、筒井旧相談役は体調不良のため急遽欠席ということでした。

私は、委員長として初めての参加です。前期会議だから事業計画の説明をしなくてはいけなかったと思っていましたが、事前に後期定例ぎふ会議の報告を8分でと連絡をいただいていたので、当日会議次第を見てオロオロすることなく、発表できました。

内容としては

●議事録についてももう少し前後の内容がわかる物にしていきたいと思いますということになりました。

●開催県の持ち回りですが、前期は静岡県を抜かして、東海北陸6県で回していくことが承認されました。

岐阜県は2020年前期、2022年後期(運営委員長選出県の規定で)、2024年後期、2026年前期と2年ごとに開催県が回ってきます。全体を見ていろいろな事を決めていかなくてはならないと思いました。

●予算案承認のとき、大森運営委員長が、交通費等の負担が重く、ウエーブ会議等も考えていかななくてはならない時も来ると思うが、直接顔を合わ

せて話し合うことは必要と考えるので、今のところはこの状態でやっていきたいと言われました。今年（2018年）の全建女は高知県で、来年（2019年）は東京で、2020年は福岡県だそうです。

●次回の後期三重県亀山大会についてですが、場所が不便なところにあり、車だと移動が楽なのですが、公共機関利用だと、いろいろこちらで手配をしなくてはならないので、早い時点で参加者のだいたいの人数を知りたいということでした。

●2019年度後期は愛知県が担当県です。女性協議会30周年の記念事業を行います。そのため女性建築士協議会の単独開催となります。青年建築士協議会の承認は得ています。今、会場選びをしている最中ということでした。

配布資料として『愛知県女性委員会30周年の記念誌』を受け取りました。

立派な印刷物です。全部で500部作り、愛知県の女性委員300名と30周年記念事業のワークショップ、交流会で配布して、今回のブロック会前期富山大会で約50部、愛知県の本会理事、全国各県の女性委員会へ配り、今50部ぐらいが残っているということでした。

費用はいくらぐらいかかったのかと伺うと、印刷代をすごく安くしていただき約29万円、編集等は自分たちが行いましたが、会議等の交通費として雑費が約7万円、発送費が約10万円。だいたい45万円ぐらいかと思えますということでした。

平成29年度と平成30年度の二カ年に渡る事業で予算も2年間で出ているということでした。岐阜県建築士会女性委員会の30周年の参考になると良いと思いました。

恒例の会議のおやつですが、薬膳サブレと富山はとむぎ茶と富山県建築士会会長の近江吉郎氏差し入れの田舎まんじゅうがありました。美味しくちようだいしました。



（↑ 今回の会議のお茶とお菓子）



（↑ 開会式の様子。富山県建築士会会長の挨拶）

ブロック会

前期富山会議報告

報告者：伊藤麻子

◎会議では、

女性委員会のみだと受付や食事もちんまりとスムーズに進み、会場の距離感も近くてお互い話しやすいです。

私は参加できませんでしたが、昨年の岐阜での後期ブロック会がとても好評で、女性委員だけでも可能だという良い事例になったようでした。改めて、運営された委員の方々、お疲れ様でした。

窓からの景色も良く、河口付近の港門の説明も富山の方にしていただきました。港の風景は素敵ですね。山の民には憧れです。



（↑ 9階の会場から見た景色）

◎富山県美術館では、

雨が降ったり止んだりの少し肌寒いお天気でしたが、空調のばっちり効いた館内で楽しい時間を過ごしました。

テレビや雑誌でも取り上げられた、地方で輝く魅力的な美術館です。丁度近くの環水公園の中には「世界一美しいスターボックス」もあり、話題いっぱい前回家族と訪れた時は車を停めるのに一苦労しました。今回は夕方の時間だったのでぐいれました。

前半は空調機械室や中央制御室を見学、内部の大空間の空調負荷は大変なものですが、水槽での熱交換などで少しは軽減されているようです。

後半は県土木部で設計に係られていた稲田さんの説明でした。

もともと県立の近代美術館があり、素晴らしいコレクションを収蔵していたのにもかかわらず、設備や構造の点で問題が多かったのが、環水公園の整備とともに移転新築となったそうです。ガラスのカーテンウォールは立山に平行になっており真正面に見えます。

内外装は極力富山県産材を使っているとのこと、アルミやガラス、木目の美しい杉材など豊富に使われています。これは設計者の内藤廣先生らしい手法だと思いました。

富山は海にも山にも恵まれた、豊かなところで。帰り道、散居村の素敵な林と民家を見ながら、一層強く思いました。



(↑ エントランスまわり)



(↑ 屋上庭園)

見学会報告

報告者：桂川麻里

富岩運河環水公園と富山県美術館

定例会議が終わり、徒歩で美術館まで15分ということで、富山県の案内人さんが道中案内してくれるはずでしたが、直前まで曇りだったのに突然の大雨で、伊藤さんの車で移動することに。

せっくなので、案内の為に説明メモを頂いてきました。

富岩運河環水公園→富岩運河環水公園プロムナード→とやま自遊館とサンフォルテ富山市総合体育館→泉と滝の広場→世界一美しいスターボックスの説明をして下さるそうでした。

環水公園では上流と下流の水位差約2.5mを調整する施設、パナマ式の「中島閘門(こうもん)重要文化財」があり、観光船で体験もできるらしいです。下った後は、路面電車で帰れるそうです。

泉と滝の広場では天文橋があり、兩岸に高さ20.4mの展望塔があります。その展望塔には赤い糸(釣り糸)を使用した糸電話でつながっているそうです。

スターボックスは日本で初めて都市公園内に店舗を構えたそうです。一度そこで川を眺めながらコーヒーを頂きたいです。

富山県美術館は富山県立近代美術館の耐震不足や美術品の保全向かない空調設備の為に、新築移転が決まり、昨年8月26日に全面開館されたそうです。

意匠設計は建築家 内藤廣氏です。設備設計も凝っていて、設備室及び中央管理室も見せて頂きました。写真掲載はNGですのでお見せすることはできませんが、自然の力も上手に利用して設計されていました。

建物自体には富山県の地場産のものが上手に多用されていました。外観のアルミはもちろんの事、吹き出し口等細かいところにも使用されているので探してみるのも楽しいかも知れません。

内部には杉が使われているのがよく分かります。富山県の中でも色々な杉がありますが、色みや香り、手触り等で氷見産材を使用しているそうです。

展示室以外は無料で入場でき、2階のホワイエからは晴れた日は立山連峰がきれいに見えるそうです。その連峰が平行になるように左右対称の建物ではなく斜めにしてあるそうです。

雨だったのでオノマトペの屋上で説明は聞けませんでした。見学会後に雨が上がって屋上に行くことができました。

日除けのオーニングは風速計で自動収納になっているそうですし、子供たちが遊んでいるときに雨が降っていても雷センサーによって危険を察知することも出来るそうです。

開館されてから予想以上の入場者で芝が痛み、今は芝貼りの工事中で色々な遊具では遊べませんでしたが、ふわふわドームだけ体験してきました。想像していた感触と違いましたが、もっとゆっくりしたいと思いました。

美術館の展示は18:00までですが、屋上やレストランは22:00まで営業していてライトアップもきれいみたいです。今度は夜まで滞在したいです。



(↑美術館内にて集合写真)



(↑美術館内部の見学の様子)



建築士の日

フェスティバル

日 時：平成30年7月28日(土)

10:00～18:00

開催会場：マーサ21 マーサスクエア

(住所：岐阜市正木中1-2-1 TEL058-295-2222)

参加者：9名

◇講習会

10:30～11:15 (45分)

「高齢者にやさし住まい：建築の基礎知識」

講師：岐阜県建築士会 福祉まちづくり部会

西濃支部：永松 光さん

11:30～12:30 (1時間)

「誰にでもやさしいまち ユニバーサルデザインって何？」

講師：岐阜県建築士会 福祉まちづくり部会

岐阜支部：下川 滝美さん



(↑講習会の様子)

13:00～15:40 (2時間40分)

「岐阜地域貢献活動センター 基金助成団体事業報告会」

岐阜地域貢献活動センター

①「街並みの景観保全と未来への伝承」

子ども伝承部会「空町発見・第5回御朱印巡り」

スタンプラリー

高山市景観町並保存連合

13:10～13:40

②「茅マイスター養成講座 2018」

岐阜県建築士会西濃支部

13:45～14:15

③「岐阜空中水路構想」

岐阜まちづくり活性化会

14:30～15:30

◇(公社)岐阜県建築士会パネル展示

◇木製バードコール作成体験 参加費 300 円
先着 100 個

◇風船プレゼント お一人さま 1 個限り 先着
1000 名

◇建築・福祉のまちづくり無料相談

建築士の日フェスティバル 2018 に参加して

報告者：岡田利里

建築士の日フェスティバルが、7月28日(土)にマーサ21で開催されました。女性委員会では、恒例となりました風船配りを行いました。

初めて参加させていただいた私は、風船を天井に飛ばしてしまったりと、あたふたしましたが、女性委員の皆さんは、手慣れた様子でヘリウムガスを入れ、口を留めた風船を手早く飾っていきます。カラフルな風船を見ると、お子さんたちが集まってきてくれるので、人出の多いお昼近くには、作った風船がどんどん減っていきました。隣でバードコール作りの体験コーナーをしてみえる青年委員の方たちも、風船作りを手伝って下さいました。ありがとうございました。

風船を配っていると、お子さんだけでなく年配のお客さんに、建築士って何をしているんですか？と聞かれたりしましたので、ブース内の展示などを見ていただきました。

建築士の仕事を知っていただく良い機会になっていると思いました。皆様お疲れさまでした。



(↑ 風船配布の様子)



平成 30 年度

第 28 回全国女性建築士協議会

(高知)

日時：平成30年7月28日(土)～29日(日)

会場：高知県立県民文化ホール

(高知市本町4丁目3-30)

電話 088-824-5321)

懇親会・・・三翠園 富士の間

(高知市鷹匠町1-3-35)

電話 088-822-0131)

参加者：3名



(↑ 会場前にて集合写真)

プログラム

7月28日(土)

12:00~13:45

【全国女性委員長(部会長)会議】

13:00~14:00

【受付】

会場：高知県立県民文化ホール グリーンホール

14:00~14:30(30分)

【開会式】

14:30~15:45(75分)

【被災地の現状報告】

・「東日本大震災復興事業としての防潮堤について
思うこと」

宮城県建築士会 星 ひとみ

・「ふくしまの現状」

福島県建築士会 酒井 美代子

・「被災地から 今だから伝えたいこと」

熊本県建築士会 盛高 麻衣子

・「大阪府北部地震での建築士会の対応について」

大阪府建築士会 石貫 方子

16:00~17:30(90分)

【基調講演】

・講師：山本長水 ひさみ

演題：

「未来へつなぐ居住環境づくり」～ 一周おくれ
で先頭に 伝統こそ最先端 ～

18:00~18:30

【大交流会 受付】

会場：三翠園 富士の間

18:30~20:30

【大交流会】

21:15~22:45

【夜のエキスカッション】(二次会)

7月29日(日)

9:00~11:00(120分)

【分科会】

会場：高知県立県民文化ホール、高知会館

11:20~12:10(50分)

【全体会】

会場：高知県立県民文化ホール グリーンホール

・分科会報告 各分科会司会者

・全体講評

日本建築士会連合会女性副委員長 山中 路代
・平成30年度 第28回全国女性建築士連絡協議
会アピール

日本建築士会連合会女性委員長 小野 全子
・第61回 建築士会全国大会さいたま大会参加の
ご案内

埼玉建築士会女性委員長 中野 万紀子

・開催県挨拶

第28回全建女実行委員長 岡本 佐代子

・閉会の辞

日本建築士会連合会女性副委員長 山中 路代

12:30~(16:20~18:00)

【エキスカッション】

[6コース 昼食付き]

平成30年度

第28回全国女性建築士連絡協議会(高知)大 会に参加して

報告者：長瀬八州余

今回の大会は7月豪雨に始まり、台風12号に振
り回された大会でした。

結果としては、ハラハラドキドキしましたが、事
故もなく、帰ってくることができました。

28日お昼12時から開催の「全国女性委員長会
議」に参加するには、私の住んでいる所からは、朝
一の電車に乗っても間に合わないの、私だけ、
前泊することになりました。高知は遠いのだなあ
と思いました。

27日の16時ごろ高知駅に着いて、路面電車で
宿へ向かいました。途中、はりまや橋周辺を観光
していて、全建女参加の秋田の人と知り合いにな
りお互いの写真を撮りあいました。

28日は、宿のフロントで全建女参加の福島県
の方と知り合いになり、二人で午前中、高知城、高
知城歴史博物館、高知県立文学館等を見学しまし
た。

12時からの全国女性委員長会議に参加しました。
会議後、岐阜県から参加の2名と合流して、開会
式、被災地の現状報告、基調講演と続き、会場
を移しての、大交流会に参加でした。



(受付の様子)

昨年度から始まった「1×1」(1県が1枚のスライドを使って、1分間の発表。発表内容は、各県士会女性委員会の活動紹介、近況報告、最近の気になる話題など)の発表を東海北陸ブロックからは石川県と岐阜県が行う予定でした。しかし、明日交通機関で、JRは全線運休、飛行機もどうなるかわからないという情報で、今なら飛行機は飛んでいるということだったので、石川県の人は急遽帰られました。石川県の人の代わりとして、東海北陸ブロック会相談役の筒井さんが発表をなさいました。急なことでも、上手に話されたことはみごとでした。

岐阜県は私が考えた発表の内容「たくみ女子会について」を、委員の皆さんに読んでいただいて、いろいろ訂正をしていただき、発表をしたので、自分の中ではよかったのではないかと思います。



(「1×1」の発表の様子)

「1×1」の発表後乾杯となり、大交流が始まりました。

今回の全建女はオプションで「夜のエキスカッション」があり、岐阜県から参加の3名は申し込みました。大交流会後、タクシーに乗り、繁華街の会場まで行きました。「夜のエキスカッション」は多くの参加申し込みがあり(100名弱)、会場を2ヶ所に分けて行ったということです。

1コースはよさこい踊りで、2コースはお座敷の楽しみ方で、岐阜県の3名は2コースでした。どういう方法で分けたのか聞いたところ、フィーリングだと係の方は話して下さいました。席が一緒になった福岡県の方は、飲める私たちが2コースで、あまり飲めない人が1コースでよい人選だったと話していました。

29日は分科会と閉会式、エキスカッションでした。



(↑閉会式での10月開催の全国大会さいたま大会の案内の様子)

分科会の分科会報告の時に一斉に携帯のアラームが鳴り出しました。

台風12号によるエリアメールのお知らせでした。今回の台風12号は進路が変則で東から西に進路を取っており、地元の人でも初めての経験で、どうなるか予想がつかないので、交通機関はより安全策をとっているようでした。



(↑高知の女性委員がデザインした缶バッチをお土産でいただきました。)

私は、高知にもう一泊して、桂川さんと長尾さんは夜行の高速バスで帰ることになりました。私は今回3泊4日の日程になってしまいましたが、充実していました。高知県建築士会女性委員のパワーに圧倒された大会でした。いろいろとありがとうございました。

全国女性委員長(部会長)会議報告

報告者：長瀬八州余

12 時からの会議で、お弁当も出るので、早めに行って、会議前にお弁当を頂きました。



(↑会議で出たお弁当)

<協議事項>

1. 平成 30 年度 第 28 回全国女性建築士連絡協議会アピール(案)について
 2. 第 61 回建築士会全国大会「さいたま大会」女性委員会セッションについて
- の 2 議案が拍手にて承認されました。

<報告事項>

1. 2019 年度 第 29 回全国女性建築士連絡協議会について
7 月 13 日、14 日 東京 建築会館にて
2. 2020 年度 第 30 回全国女性建築士連絡協議会について
担当県：福岡県
会場：九州産業大学
日程：7 月 11 日、12 日又は 18 日、19 日
(1 級の試験日程がわかるので 1 月なのでそれによって日程は決まります。)
3. 「魅力ある和の空間ガイドブック (WEB 版)」について
2018 年 9 月ホームページ上にて公開予定です。
4. 各都道府県活動報告 (各 1 分)
各県の方が発表しましたが、特に気になった部分についてポイントをふまえて報告します。

北海道

・・高校用住教育教材の販売のお知らせがありました。

岩手県

・・今年 3 月末で仮設住宅が終了するのに伴い、震災の翌年から行われていた《咲花プロジェクト》は昨年の 11 月で一旦終了しました。

宮城県

・・《記憶の中の住まいプロジェクト》は継続事業として続けています。

秋田県

・・「学習会で建物は人々の手によってその空間が常に手入れされていることと、そこで過ごす人たちの存在が重要であると改めて気づかされた」と話された事が印象的でした。空き家になると本当に早く朽ちていく事に関係があるのではないかと思います。

茨城県

・・提灯作りを提灯専門店とのコラボで体験教室を開いた。専門店にとっても今後の体験教室の足掛かりになったようです。

栃木県

・・スキルアップの活動ばかりではなく、新しい人に参加してもらえる企画も考えていきたい。

群馬県

・・別紙にて活動報告がありました。22 件ものの研修会・体験会が記入してあり、後からうかがったら、支部での活動が活発で支部ごとで動いているという説明でした。

埼玉県

・・今年最高気温を記録した時は蝉も鳴かず街はシーンとしていました。

千葉県

・・連合会女性委員会での事業の「和の空間」を通して、和の空間に目覚めたので、忘年会・新年会等でそのような建物を使っていこうと思っています。

長野県

・・活動の中で「学生との交流」があり、今までは工業高校が多かったのですが、普通科高校からのオファーもあるようになったので、今年度は長野県内全ての高校に案内を送りました。

京都府

・・昨年度の全国大会では、エキスカッション 18 コースのほとんどを女性部会主体で企画運営したので、委員同士の絆が深まりました。

和歌山県

・・県が広いので少人数でも活動できるように考えている。

島根県

・・昨年度は女性委員会 25 周年で「女性建築士 100 人の集い」と題した記念事業を行った。建築士会に縁のないようなおしゃれ系の人にも参加してもらい、好評だった。

山口県

・・新しい会員を募るために、お試し入会として、1 年間会費は無料で山口県の会誌がもらえる。1 年間の活動を通して入会を決めてもらう。こうして今年度は 3 名の新会員が増えました。

徳島県

・・4 年前に女性委員会がなくなり、今年度 6 月に男女参画委員会として立ち上げました。男性は青年委員会を卒業した人が入ってきます。

熊本県

・・熊本地震後、小さな拠点での定期的な相談会開催の必要性を感じ、座して待つのではなく、出向いて相談会をおこなっています。

宮崎県

・・研修会等でマンネリ化を感じていたのが、昨年度は鹿児島県と共同で研修会を開催。今年は大分県も含めた 3 県合同の研修会を開催する予定。

各県、女性委員会の成立年度が違い、もうすでに 30 周年をおこなった県が多くありました。又「青年女性委員会」という名称で活動している県も多くありました。全国一律ではなく、本当にいろいろな形があるのだなあと感じました。

建築士会全国大会ですが 2018 年度は埼玉県、2019 年度北海道函館、2020 年度広島県、2021 年秋田県だそうです。



(↑会議の様子 全県の女性委員長が集まると圧巻です。)

被災地の現状報告を聞いて

報告者：桂川麻里

昨年も被災地の報告をきいて、報告書を書かせて頂きました。その時はテレビで見るボランティア活動以外にも建築士として出来ることは沢山あることを知り、それが物的に被災された方々に影響を与えるものではないけれど、心の支えになることもあるのだと学びました。今年も現状報告から色々学ぶことが出来ました。

被災地の現状報告は「宮城県」「福島県」「熊本県」「大阪府」の建築士会の方々の報告でした。

宮城県では「東日本大震災復興事業としての防潮堤について思うこと」という内容でした。

経験や知識がマイナスを招いたという言葉はとても心に残りました。その経験によって高さ 10.45 m、長さ 960m の防潮堤のある地域の方々は安心して人が多かったのに対し、「津波慰霊碑」此処より下に家を建てるなということでその経験から、被災者 0 人のところもあったのは自然の驚異は人工物では歯が立たないと実感させられました。

それよりも、小さい家一軒建てるのに何年も悩む人たちがいる中で、国が進める復興事業がたった 5 年の猶予しかなかったことに私も疑問を感じました。ですが、今後補助金のあり方も考えていかなければならないと感じました。



福島県では「ふくしまの現状」という内容でした。あの事故から 7 年ではなく、事故は続いているということは私にとっても耳の痛い言葉でした。昨

年も被災地の報告を聞いたり、テレビで報道される内容を見て、もうそんなに経ったと思っていた自分が恥ずかしかったです。

放射能は目に見えない怖いものと避けて通らず、正しい知識を得て、理解していくことが大事だと実感しました。



熊本県では「被災地から 今だから伝えたいこと」という内容でした。

今回一月程前に起こった大阪北部地震で話題となった既存CB塀の倒壊が熊本地震のみならず、宮城沖地震でも起こり死傷者も出ていましたが建築業界の中でもスルーされてきていました。ちょっとしたことで、建物や工作物等の建築士が関わる事柄は共有して、次の被害を出さないよう務めることが重要だと思いました。

もう一つ重要だと思ったことは応急仮設住宅の件です。従来は一日でも早く一人でも多くということで、すぐに設置できるプレハブでギュッと詰まった隣棟間隔で設営されていましたが、熊本型応急仮設住宅は長引く避難生活を考えて、被災者の痛みの縮小化を元に木造の仮設住宅で隣棟間隔や駐車場の配置等を考えて造ってきたそうです。現在段ボールのベッドや間仕切等は被災された地域にすぐに送る手配が出来るようにストックされています。こういうことも踏まえて、木造の応急仮設住宅がすぐ被災者に届くように国をあげてストックしておくと思いしました。

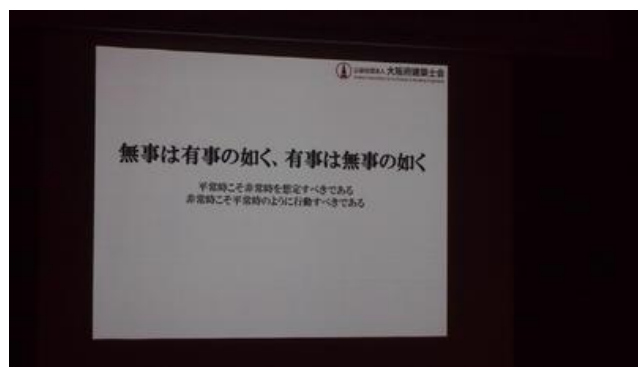


大阪府では「大阪府北部地震と大阪府建築士会の対応について」という内容でした。

地震が起こってから1ヶ月程しか経っていないのに、これだけのものをまとめていたことに驚きました。

日頃備えていた事はスムーズに行動できたとあるように、個人だけでなく行政とも連携していたことで、当日に応急危険度判定が出来たことは素晴らしいことだと思いました。

また、今回は出勤時間で交通網が麻痺したことは建築士としての行動も制限されてしまうことが分かりました。応急危険度判定士の更新の意識が薄れている昨今、地域で建築士が役立つように、常に更新と勉強をしていかなければならないと思いました。



大阪府の最後の一言で「無事は有事の如く、有事は無事の如く」とあり、4県の報告を含めて忘れてはいけない大切な言葉だと思いました。



基調講演を聴いて

報告者：長瀬八州余

テーマ「未来へつなぐ居住環境づくり」～一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端～

講師：山本長水建築設計事務所主宰

建築家 山本長水（やまもと ひさみ）氏

講師の山本氏については「土佐派の家」しか知識がなく、エキスカッションで紹介のあった「かたつむり山荘」も全く知らず、今回の講演を聴きました。

同じ四国でも高知県と香川県では全く異なり、高知は雨が多く木がよく育つ土地柄で、その木を使い、昔からの伝統の素材（和紙、漆喰等）を使っている。職人の仕事を大事にし、安くて安全な家を作る事をしてきましたという事でした。

かたつむり山荘から始まり、熊谷邸、白と黒のある家、県立中芸高校格技場、相愛本社、東津野村公営住宅、県営住宅木造3階建、稱名寺、横すべりごめんの家と写真を見ながら説明をされました。

i) かたつむり山荘は向かい側の山から木を切り出して、運ぶので、流通距離が短く、安くできると考えた。丸太のまま使うので構造的に木にストレスが少ない。

ii) 東津野村公営住宅については、10人の建築家が棟ごとに分担して設計。同一面積・同一予算、五寸勾配いぶし棧瓦の切り妻の屋根、土佐漆喰・スギ板の外壁の材料という決まりで後は自由にすることができた。

iii) 木製外部サッシュについて、片引きにして、耐風強度をクリアしている。

iv) 天井裏を作らず、骨組みを隠さないように、見せるようにしている。

あるとき、「1階に居て、2階で子どもがうるさくしたらどうするか」と聞かれて、「それは躡で対処して欲しい」と申し上げたと言われました。

質疑応答では

質疑：今までやられた作品で印象に残っている作品は？。

応答：特別印象にどうのこうのということはないが、全般に無理をしてこなかったように思う。どこかに逃げを用意していたように思う。致命的な失敗はしてきていないと思うと言われました。

質疑：かたつむり山荘の時の木材の乾燥はどうしたのか

応答：林の中で伐採して、葉付き乾燥をおこなった。葉が茶色になるまでゆっくり時間をかけて寝かせるので、割れがおきない。他の物件についても、乾燥待ちなので、設計時間が延びてもOKというときもあると言われました。

隣でパソコンの操作をしていた女性は、昔山本氏の設計事務所でお勤めしていた人だそうです。パソコンの操作をしながらも先生にお茶を差し上げたり、先生が言いよどむと、助け船を出したりしてみえました。よい関係を築かれているのだなあと思いました。

たくさん話をうかがうことができて、楽しい講演会でした。

ありがとうございました。



(↑講演の様子)



(↑講演の様子)

大交流会に参加して

報告者：長尾則子

大広間に沢山の丸テーブル、中央のステージに各県の女性委員長が並び、順に1分ずつ発表の最中に私は席に座ることが出来ました。台風到来、事前購入の復切符を高知駅で取替し、少し遅れてしまいました。

大勢の元気な建築女子の方の熱気があふれ、居心地の良い交流会でした。

テーブルには、クジラ肉の串カツやクジラハム、うつぼのから揚げ、カツオのたたきなど高知ならではの食事がならび、飲み物も美味しくわいわいとどのテーブルも自由に交流がなされ楽しい時間でした。

私の隣は、高知県建築士会青年委員会副委員長 横畠康さんと熊本県八代市建設部建築指導課 盛高麻衣子さんでした。盛高さんは「被災地の現状報告」を発表された方で、聡明な方でした。横畠さんは、中盤にバンドでドラム演奏もされ、会を盛り上げていました。

有名なアイスクリンには、最初から最後まで長い列ができ、お祭りの屋台のようなのりでした。ゆっくり食べることが出来ないくらい話も弾み、あっという間の2時間でした。盛り上げ上手な高知県の方々のおもてなし精神に感動し、あらためて感謝いたします。



(↑ 交流会場の様子)



(↑ 高知県の郷土料理 皿鉢料理)



(↑ 高知建築士会の一級建築士バンド” Arby's” による演奏)

夜のエキスカーションに参加して

報告者：長尾則子

全建女に、二次会があるなんて・・・？すごくない？そんな印象が最初ありましたが、高知の方々のおもてなしで、日本酒のおいしいバーに連れて頂き、そこでは、べろべろの神様がテーブルに来て、可杯（と書いてベクハイと読む）を使って独楽が当たった人が皆の唄で囃し立てられながら飲み干す楽しいお座敷遊びで盛り上がりました。

桂川さんが、何度も一気飲みで飲み干すのを隣でみていて、あんなにお酒に強いなんて、とても頼もしく魅力的に思いました。



(↑ お座敷遊びの様子)

分 科 会 報 告

日時：平成30年7月29日（日）

会場：高知県立県民文化ホール

（高知市本町4丁目3-30 電話 88-824-5321）

高知会館

（高知市本町5-6-42 電話 088-823-7123）

参加者：3名

【分科会】 9:00～11:00（120分）

・A分科会「防災への取り組み」

司会者：土居 純子（高知県建築士会）

コメンター：北山 めぐみ（高知県建築士会）

・B分科会「建築女子がきづく未来」

司会者：石貫 方子（大阪府建築士会）

コメンター：野上 珠理（大阪府建築士会）

・C分科会「歴史的建造物と建物再生」

司会者：本間 恵美（北海道建築士会）

コメンター：曾我部 千鶴美（大阪府建築士会）

・D分科会「会員拡大に向けた取り組み」

司会者：満原 早苗（佐賀県建築士会）

コメンター：本房 美保（鹿児島県建築士会）

・E分科会「自治体連携とまちづくり」

司会者：新海 直美（北海道建築士会）

コメンター：村越 千幸子（山口県建築士会）

・F分科会「地産材」活用の取り組み

司会者：小林 淑子（宮城県建築士会）

コメンター：松橋 雅子（秋田県建築士会）

・G分科会「高齢社会と住まい」

司会者：筒井 裕子（愛知建築士会）

コメンター：竹中 美智子（愛知建築士会）

・H分科会「既存民家の活用」

司会者：多羅尾 直子（東京建築士会）

コメンター：赤尾 苑香（徳島県建築士会）

岐阜県参加分科会を示す。

A 分科会

「防災への取り組み」に参加して

報告者：長瀬八州余

司 会：土居 純子（高知県建築士会）

コメンター：北山めぐみ（高知県建築士会）

【趣旨】

高知県は南海トラフ地震とそれに伴う津波が予想され、ハード・ソフト双方からの防災対策が進んでいます。そこで高知県建築士会では、リスクコミュニケーションを図り防災意識の向上に資する「逃げ地図づくり」のワークショップの学習と実践に取り組んでいます。

【ワークショップ】

高知市内のお城周辺の1/1500の地図が用意されており、すでに津波避難ビルが記入してありました。A～Eの5グループにクラス分けをしてワークショップをおこないました。

A：付近在住で晴天の昼間

B：付近在住で晴天の夜間

C：旅行者で晴天の昼間

D：旅行者で晴天の夜間

E：車いす使用者で晴天の昼間

の各条件下で「逃げ地図」の作成をおこないます。各グループには、高知県建築士会の人々が居て、地図の説明をして下さるので、参加者はわからない所を聞きながら作業を進めました。

作業後、各グループで発表があり、高知県での取り組みの報告等があり、和気あいあいのうちに時間になりました。



（↑作業の様子）



(↑ 地図作成の様子)

【感想】

「逃げ地図」ということを聞くのも初めてでした。津波避難ビルという言葉は聞いたことがありましたが、しっかり認識するのは今回が初めてでした。

ワークショップの中での色塗りが、濃い緑→薄い緑→黄色→ピンク→赤と避難時間がかかるほど赤よりになっていくのですが、私が参加したAグループは条件が楽なので、黄色までで塗り終わりました。しかし他のグループでは赤色もあり、条件によって全く違うことに驚きました。

地図を作成することが、主目的ではなく、その地域の人が集まり、コミュニケーションを取りながら、危機管理の認識をしていくことが、主眼なのだと感じました。

午後から参加のエキスカレーションのバスの中で津波避難タワーを海沿いで多く見ました。



(↑バスの窓から、津波避難タワーを写す)

それと国道のバイパス工事では、すごく高い支柱を立てて作っていました。これも津波対策の一環ということでした。

逃げ地図の作りかたについては(一社)子ども安全まちづくりパートナーズのホームページからマニュアルがダウンロードできますということでした。

【逃げ地図の説明(日建設計のHPより)】

日建設計ボランティア部(社内クラブ活動)が開発した「避難地形時間地図」(通称:逃げ地図)とは、行政や住民の復興に向けた協議を支援するために開発した地図の記述方法のことを指します。対象となる地域の白地図上に、過去の津波記録から安全区域を設定し、高齢者がゆっくりと歩行してそこまで辿り着ける時間を3分ごとに色分けし、避難時間を可視化した地図です。その地図上の任意の箇所に避難路や避難タワーなどを設けた場合、安全なエリアがどれだけ広がり、避難時間がどれだけ短縮され、必要な経費がどのくらいになるかなどを明示します。

【津波避難ビルの説明】

津波避難ビルとは、津波が押し寄せたとき、地域住民が一時的に避難するための緊急避難場所として市町村によって指定されたビル(建物)を言う。地震発生から津波到達までの時間的猶予や地理的条件等の理由で、近くの安全な高台等への避難が困難と想定される地域において、ビルの高さや構造、耐震性などの要件を満たすものを選定し、市町村があらかじめ指定する。津波避難ビルとして指定を受ける施設は、公共施設のほか、商業施設、民間マンションも含まれ、民間施設の場合、自治体が所有者と協定を結ぶ方式となっている。



(津波避難ビルのロゴ)

会場となった「高知県立県民文化ホール」も入り口にこのロゴが貼ってありました。



(A分科会の集合写真)

F分科会「地産材」活用の取組みを聞いて

秋田スギネットワークたかのすの取組み
『地産材の家づくり～地域の木とこどもたち～』

報告者：桂川麻里

司会者：小林 淑子（宮城県建築士会）
コメンター：松橋 雅子（秋田県建築士会）

士会の活動ではありませんが、岐阜県林政部林政課の岐阜県木の国・山の国県民会議委員として、更にその中の「木づかい部会」に参加させて頂いて5年目となりました。最初は岐阜県内の森林の状態や県産材の使われ方等を知っていき、どうしたら岐阜県産材を使って頂けるのかという県内だけにしか目が向いていませんでしたが、他県ではどんな感じだろうと考え始めた時にちょうど「地産材」の活用の取組みというのが目に入り、今回の分科会に参加しました。

秋田県では平成14年10月から設計事務所、工務店、設備工事業者、建材店、製材所、プレカット工場、森林組合で構成された「秋田スギの家」供給グループが県内各地に県の補助金を元に出来たそうです。地域性を生かした個性的な活動を続けて来たそうですが、「金の切れ目が縁の切れ目」ということで、平成24年3月に県からの補助金がなくなったとたんほとんどのグループが終了してしまっただけです。

そんな中でも「秋田スギネットワークたかのす」は身近な活動を中心に続けているそうです。

活動内容としては「北秋田型住宅」の研究等は発足当時から続けられているそうですが、その他に平成26年からは「木育」を主たるテーマとして活動しているそうです。

建築だけでなく、木育「かきくけこ」に沿って様々な活動をしていけることが分かりました。

「け＝経済を活性化させる」として製材も減少していく中、住まいの材だけでなく杉の樽も作っている製材所は売上や従業員も増やしていくことや、「こ＝子どもの心を豊かにする」として「きたあきたの木とくらし」という絵本を作成しているそうです。

今後の課題と活動としては、どの件も同じですが、地元の工務店・技能者減少やハウジングメーカーの進出に営業力が欠けるとして、空家の利活用も含めたりリフォーム事業の情報発信を行ったり、昨年ウッドデザイン賞を受賞した「つみきこぼこ（秋田杉）」は現在地域外の障がい者施設に委ねられているが、地元の高齢者等と共に制作・販売をするビジネスを企画中だそうです。

この取組を聞いた後、分科会に参加した人々にも意見や、各県の取組みを一人1分を目安に発表して行きました。

その中で、秋田県さんから、杉材は梁に使わないのいではなく使えないという話題から、「使える、使えない」という意見が出て、県によって杉の扱いがこんなに異なるんだと実感しました。岐阜県ではE値等を目安にスパン表が作成してあり、それを元に設計をしていると説明しました。他に徳島県でもスパン表を作成していると聞きました。

また、先に記載した岐阜県林政部県産材流通課での取組や「ぎふの木のおうち」のすごろくの話をしたところ、すごろくは大好評で、可愛いし、分かりやすいという意見を頂いたり、全体会の時にも良い取組みとして取り上げて頂けてとても嬉しかったです。

最後に、ここで取り上げてホームページで検索して欲しいものを紹介したいと思います。

きたあきたの木とくらし(絵本) 「秋田スギネットワークたかのす 絵本」で検索

つみきこぼこ 「つみきこぼこ」で検索

スパン表 「木材 スパン表」で検索 ※色々な県のものが出てきます。



(↑F分科会の様子)

H分科会―「既存民家の活用」に参加して

報告者：長尾則子

司会者：多羅尾 直子（東京建築士会）
コメンター：赤尾 苑香（徳島県建築士会）

神山町が将来に向けて7つの施策領域に取り組む、その中のすまいづくりのひとつ「民家改修プロジェクト」を役場と神山つなぐ公社が両輪で進めている。地域の女性建築士がそこで奮闘している姿が、同じ女性として大変印象的でした。

机上だけでなく、町民・町内に出かけていき、何度も詳しい説明、バスツアー、広報紙、ブログで報告、など地域への発信やコミニを大切にしたい地道で丁寧な活動が成功につながっているように思えた。

なかでも、空家の庭の剪定を、近くの高校の造園土木科の実践授業にしているのは、所有者にはお金が掛からず、高校生には技術を付ける実習になり、良い方法であり、どこでも真似して出来るのではと思う。

改修後の住宅を使って、移住が成功する場合も、トラブルになる場合もあり、住む人の向き不向き等もあるというのは、移住に取り組んでいればそうだと思うので正直に淡々と伝えてくださるのが良かった。

この話は、私自身の良い勉強になり、自分の住む地域の空き家に取り組む参考にしたい。



（↑H分科会の様子）

エキスカーション報告

日時：平成30年7月29日（日）

エキスカーション

参加者：3名

【エキスカーション 6コース】

1コース

設計者山本長水さんに行く！名建築「かたつむり山荘」

2コース

もうすぐ世界遺産認定！？四国霊場3／88ヶ所巡り

3コール

かまどで炊いたご飯と赤れんが商家 再生・活用プロジェクトを学ぶ

4コール

仁淀ブルーを屋形船で堪能♪土佐和紙のまちで紙すき体験

5コール

高知で2番目の重伝建地区 武家のまち土居郭中散策

6コース

老舗専門店のうなぎを食べる 白壁のまち佐川でお酒の文化を学んじゃえ

今回台風12号の影響で1コースはかたつむり山荘までの道が危険なため、山本長水氏の他の作品を見学することになりました。

4コースは屋形船のため6コースに変更になりました。



エキスカーション 5コース

「高知で2番目の重伝建地区 武家の まち土居郭中散策」 に参加して

報告者：長瀬八州余

閉会式後、各エキスカーションに分かれて、バスに乗り込みました。

私が参加した「エキスカーション5」は、今回一番の少人数、15名（各県から13名＋高知県建築士会女性委員2名）での参加でした。バスが中型で、細い路地を進むには、よい大きさがよかったと運転手の方はおっしゃっていました。

高知県で重伝建地区（重要伝統的建造物群保存地区）の一番目は室戸市の平浦地区で2番目が安芸市の土居地区で、広さは9.2ヘクタールです。平成24年7月に選定されました。

土佐藩家老の五藤家屋敷を中心に土用竹や瓦塀など、近世の骨格を今に伝える町並みで、武家屋敷の面影をとどめていました。

バス移動一時間弱で昼食会場の「郭中ふるさと館」に到着しました。地元のご婦人が運営している食堂で、安芸名物釜揚げチリメン丼と旬のナスを使った「おもてなし膳」をいただきました。美味しかったです。ごちそうさまでした。



（↑利用したバスと食事処）



（↑昼食のおもてなし膳）

蓮の花が咲いているお堀回りを歩いて、五藤家住宅へ向かいました。

五藤家住宅は明治2年（1969）に土居の廃止が決定され、五藤家安芸屋敷は取り壊されたが、翌年にはその敷地の所有が認められ、明治20年代半ばには現屋敷が再現されました。今は安芸市が管理しています。

屋敷内部にてプロジェクターを使用して安芸城の歴史、五藤家の歴史、土居郭中の歴史、町並み等の説明を市の職員の方から受けました。現在土居郭中の家数は63戸で、江戸時代から住み続けている家は14戸だそうです。



（↑座学の様子）



（↑建物内部 一本の丸太梁）

その後外に出てボランティアガイドの小松さんと土居郭中内を歩きました



(↑写真ではわかりにくいかもしれませんが、瓦の棧の向きが右側と左側の2種類あります。これは、風向きによって使い分けているという説明でした。それだけ高知は風が強く吹くということだと思いました。)

町民の方が「郭中保存会」を組織して、生け垣の刈り込み等をして清掃・保存をおこなっているという説明を受けました。



(↑生け垣と瓦塀)

少し雨に降られましたが、終盤は日も差してきました。
野良時計の前で集合写真を撮り、岐路につきました。



(↑野良時計の前で集合写真。)

行きと帰りのバスの中で、高知県建築士会女性委員の方とお話をして、今回の高知大会での苦労話を聞きました。

エキスカーションについては、やりたいことが多すぎて、半日では盛り込むことができず、泣く泣くカットしていく事が多かったということです。今回の全建女は7月の豪雨に始まり、台風12号に振り回された大会になりましたが、高知県女性委員の皆様は臨機応変に対応されて、参加した私は何も心配することなく過ごす事ができました。本当にありがとうございました。

エキスカーション 6コース

老舗専門店のうなぎを食べる白壁の
まち佐川でお酒の文化も学んじゃえ
に参加して

報告者：桂川麻里

高知を訪れるのは2回目ですが、1度目は一般的な観光地しか行かなかったので、エキスカーションは楽しみにしていました。どこも惹かれるところはありませんでしたが、うなぎを食べて、白壁のまちを見て、お酒も飲めるとなったら、このコースしかないと思い参加させて頂きました。

1人で参加予定でしたが、大雨や台風の影響で1コースの「かたつむり山荘」へ行けなかった長尾さんと一緒に参加しました。

バスの中でうちわとお茶と「ミレーフライ」を頂きました。高知(土佐)のお土産はこれだ!!とは知らなかったの、お土産に買って帰りました。



(↑団扇とお茶とミレーのお菓子)

昼食は予約をしないと食べられないという「大正軒」でうなぎを頂きました。うなぎは大きくて皮はパリッと中はフワッとで美味しかったです。



(↑食事の様子)



(↑料理)



(↑お店の外観)

食べ終わった後は徒歩で「さかわ上町まちなみあるき」をしました。まずは佐川地場産センターへ観光ガイド「NPO法人さかわくろがねの会」の方から説明を受ける為に訪れました。説明を受けなければ通り過ぎてしまいますが、石積階段のあちこちに化石がありました。



(↑石垣の中の化石)

地場産業センターの中にはさかわの模型作家「栗田眞二氏」作成のさかわの街並みを表現した模型がたくさんありました。瓦一枚一枚や出入口も開いたりとても手の込んだものでした。



(↑センター内での説明の様子と模型)

その後外へ出て歩きました。白壁と下見板張りがとてもきれいな街並みでした。所々で中を見られる建物もあり、リフォームされているものの、昔の面影を残しつつスッキリとした内装が多かったです。



(↑ 町歩きの様子)

「日本の植物学の父」と言われる「牧野富太郎氏」が良く遊んだと言われる「金峰神社」の前を通り、土佐三名園のひとつと言われる「青源寺」へ行きました。



(↑ 金峰神社の入り口)

そこで庭園の話や現在はつぼみでしたが牧野氏にゆかりの深い黄蓮華升麻(キレンゲショウマ)のお話も伺い、庭園を見て回りました。



(↑ 青源寺の住職さんのお話の様子)



(↑ 庭園の風景)

住職さんが帰り際に岐阜県の名札を付けていた私たちに声を掛けてくださり、薄墨桜の存在を教えてくださいました。岐阜の薄墨桜を頂いて植えたそうです。これは観光マップにも載っていないですが、葉桜だと分かりにくいですが、境内からも見えますし、青源寺から牧野公園に行く途中にありますので、岐阜県民ならちょっと足を延ばして訪れて欲しいです。



(↑ 薄墨桜)

建物とお土産買いを楽しめる3件、日本酒は「司牡丹」さん、雑貨は「旧竹村呉服店の喫茶まるきゅう&雑貨屋キリン館」さん、さかわのお土産なら観光協会が運営する「旧浜口邸のさかわ観光協会」さんを案内して頂きました。旧浜口邸では時間があったら奥の部屋で庭を見ながらゆっくりコーヒーでも飲みたい雰囲気のところでした。また、ゆっくり訪れたい場所でした。



(↑日本酒 司牡丹)



(雑貨は「旧竹村呉服店の喫茶まるきゅう&雑貨屋キリン館」)



(さかわのお土産なら観光協会が運営する「旧浜口邸のさかわ観光協会」)



大野町「北岡田家」

見学会

日 時：平成30年9月25日（火）

13:30～15:00

会 場：北岡田家

揖斐郡大野町相羽字村通 282

参加者：11名



(↑玄関前にて集合写真)

報告者：小林教子

女性委員会終了後、大野町 北岡田家住宅を見学させていただきました。

ここは全建女「魅力ある和の空間ガイドブック」で紹介をした物件です。現在は北岡田家が所有し、主屋は「国登録有形文化財」に登録されています。大野町の教育委員会の方の案内で、表門・米蔵・坪ノ内（庭園）・道具蔵・北納屋（厩と味噌蔵）・東納屋を経て、母屋と離屋の内部を見学しました。

北岡田家は、江戸時代大垣藩領柴村の庄屋や段木御用の土場船方取締役を務め、5代当主岡田善麿氏が30年かけて完成させた建物群で、肖像画が母屋の仏間に掲げてありました。

庭園の高低差（築山と池底）は5.5mあり、大水害の経験から最後には築山が避難所となるよう設計されたとか。表の道路より敷地は1.5m盛土がされており、米蔵や坪庭を囲う塀は玉石積がされています。表門前の土手は町道に改修されています。

主屋の内部は大きな木割の豪壮な空間と、細部にも材料やデザインにこだわった造りとなってい

ました。特に現在ではもう制作できないような襖の織物や当時からの畳など、このまま展示していてよいのかと思われる貴重な材料は一見の価値があります。

最近まで大きな改造もせず、不便ながらも住み続けておられた持ち主の建物に対する愛着が至る所で感じられる物件です。

ただ、天窓からの雨漏りも各所に見られ、離屋の傷みもかなりあり、大野町がどのように保存活用をしていかれるのか、老婆心ながらこれからのご苦勞を少し心配してしまいましたが、このような貴重な建築物は市町村の覚悟がない限り残っていかないのが現実だと思います。



(↑表門前にて)



(↑庭にて)



(↑母屋外観)



(↑玄関内部)



(↑奥座敷)



(↑台風後の見学会でしたので、蔵の壁が剥がれ落ちていました。)



新入会員紹介



岐阜支部 岡田 利里

はじめまして。今年度、建築士会に入会しました岡田利里と申します。

HPの女性委員会便りを見させて頂き、講演会や勉強会、他県の女性建築士との交流等々、楽しそうな活動に、私も参加したいと思っていましたので、女性委員会にも迷わず入会させていただきました。

私は、長女が生まれてから7年程、仕事のプランクがあり、いざ再開してみると、ゼロからのスタートで、外に目を向ける余裕があまりありませんでした。再開して10年近くなり、下の娘も義務教育が終わりに近づきました。まだまだ子育ては続きます。が、これからは、楽しいこと、興味のあることを積極的にしていこうと思っています。

建築士会、女性委員会の諸先輩方をお手本に、地域に貢献したり、知識の幅を広げたり、皆さまとの交流を深めたりしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

43号をお届けします。
平成30年度前期の報告となっています。
今回は紅葉をマークに使用しましたがいかがだったでしょうか

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。
また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会
岐阜市藪田南5丁目14番地12号
岐阜県シンクタンク庁舎4階

TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

